

タイトル：平成31（2019年度）教育セミナー（第15回）

日時：2019年9月19日（木）～22日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階大会議室（303）

蔡曉冰（東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士前期課程世界言語社会専攻1年）

4日間の中東☆イスラーム教育セミナーを通じて、イスラーム世界及び中東世界についてさらに深く認識することができました。アジア・アフリカ言語文化研究所の先生方、そして他の院生たちから多くの知識を得られました。先生方と受講生の研究成果発表、そして討論や質疑の時間は、異分野である私にも大変勉強になりました。非常に有意義な時間を過ごせました。ありがとうございます。

このセミナーは、中東地域とイスラームという2つの枠組を軸として構成されています。中東のイスラームに限らず、東南アジアのイスラームの態様も含まれています。特に、新井和広先生の講演、「アラブ移民と聖者信仰の伝播:南アラビアとジャワの事例から」では、中東地域と東南アジア地域におけるイスラームに関する交流についてより深く認識することができました。その中で、インドネシアのジャワにおけるワリ・ソンゴ(Wali Songo)という聖者への信仰は特に興味深かったです。中東地域と離れた東南アジアの島嶼部であるインドネシアのジャワへのイスラームの伝入、そして当地の文化との融合も紹介されました。特にジャワにおけるハドラーミー・サイイドの血統へのワリ・ソンゴの取り込みについて、ジャワ人がどうやってイスラームをローカル化し、定着させたのかという疑問についての新井先生の分析と考察は大変勉強になりました。さらに、印象深いのは、中東にあるモスクの屋根は半ドームが多いです。私の出身地香港でも、尖沙咀にあるモスクの屋根は半ドーム型ですが、ジャワにあるモスクの屋根は天気など地域的な要因で半ドーム型ではなく、ジャワ式の方形屋根です。

また、セミナーの導入として、イスラームと中東地域研究者飯塚正人先生からイスラームとは何か、その思想や信仰の基本構造についての紹介がありました。イスラームの初学者である私にとっては分かりやすかったです。イスラームには、カトリック教のような宗教会議がないため、聖典クルアーンの解釈はムスリムに委ねられます。そして、ムスリムが自分の解釈が正しいと思込むことによって、差異が現れます。イスラームの法規範に見られる例は一夫多妻の許容についてです。一夫多妻を承認している国や宗派もあるが、認めないのもあります。また、条件付きで認める宗派もあるので、各自がそれぞれの解釈を持っていることは大変興味深いです。

今回のセミナーに参加し、すごく有意義な時間を過ごせました。私の専門と中東やイスラームへの結びつきは弱いですが、セミナーに参加することによってイスラームについての新しい知識を得ました。また、研究の作法、文献の整理法などの手法も学びましたので、自分の研究、そして修士論文の準備作業についても大変有益です。さらに、他の大学から来られた参加者との交流もでき、互いに刺激を与えあい、討論を盛り上げ、その繋がりはいまでもあります。交流の場としてもすごく魅力的でした。